

# 株式会社 小野花匠園



## 1 現在の経営内容等

### (1) 経営理念、キャッチフレーズ等

私たちは、出会いと感謝の心を忘れずに共に夢を実現します。

### (2) 栽培技術の特長

- 土づくり：半年かけて作る自家製のぼかし肥料を投入して、土壌改良に努めている。
- トマト：糖度・鮮度が最高の状態で消費者に届けるよう、畑での完熟収穫にこだわっている。
- きく：慣行の栽培管理を行っている。
- 花束：主に仏花として、価格・色・アレンジなど実需者の要望に応じて、自社生産物＋仕入品で加工している。

### (3) 販売の特長

- 役員が自ら開拓した複数の販路を有している。
- 花束：主に仏花としてスーパーと出荷契約を結んでいる。コンビニ・直売所にも出荷している。
- 切花：東京の仲卸へ出荷している。
- トマト：ホームページで直接販売している。またコンビニ・直売所にも出荷している。

### (4) 経営組織の特長

家族が役員を務める一戸一人法人。代表取締役が主に営業活動を担当し、他の役員はそれぞれ生産管理、労務管理、財務管理を受け持っている。

### (5) 労務管理の特長

ほ場が分散しているため、担当役員が作業量に応じ

た労働力の移動調整を毎日行っている。また、繁忙期にはハローワークも活用して、計画的な労働力確保に努めている。

労働者は、ほぼ地元の人で占められており、被災者の雇用にも配慮している。

### (6) 経営管理の特長

担当役員が、パソコンを活用して収支や資金繰りを管理している。また、税理士の指導を受けながら適切な会計処理を実施している。

### (7) その他の特長

生産者と消費者間の距離と時間をできるだけ縮めるため、自社ホームページ（Facebookを含む）を活用した販売や情報発信に努め、一般社団法人復興応援団が主催する「ボランティアによる農作業体験ツアー」の受け入れに協力している。

ツアー参加者とのつながりが財産となり、パンフレットデザインの協力や東京の産直イベントへの招待など販売促進に大きく貢献している。

## 2 これまでの経過

### (1) 法人化するまでの特徴的な歩み

40年前に父が就農した時は、きゅうりとトマト栽培から始まった。20年前から、きく部門を導入し、10年前に現在の代表取締役である息子が就農した。この頃から、出荷先を地方青果市場から東京の仲卸やスーパーとの直接契約に切り替えた。

## 経営のプロフィール

### 経営概要

- ・生産規模：露地きく（1.8ha）  
施設きく（3,500㎡）  
施設トマト（1,500㎡）
- ・出荷量：花束加工（仏花（10万束））  
きく切花（16万本）  
トマト（12,000kg）

### 主な施設・機械の保有

- ・鉄骨ハウス（1,500㎡）
- ・パイプハウス（2,000㎡）
- ・トラクタ2台（25PS, 20PS）
- ・管理機1台
- ・選花機1台
- ・結束機1台

### 構成員等

構成員4名、常時雇用5名、パート5～10名

### 法人設立年月日

平成24年2月14日

### 認定農業者認定年月日

平成25年2月2日

### 出資金

300万円

### 販売額

5,900万円（平成24年度）

### 役員名

代表取締役：小野 政道  
取締役：小野 則夫、小野 桂子、小野 恵美子

### 主な過去の導入事業及び農業制度資金活用

平成25年 宮城県市町村振興総合補助金（パイプハウス）  
平成25年 スーパーL資金

## (2) 法人化の動機や法人設立時の特徴的経過、法人化後の変化

耕作放棄地活用により徐々に経営面積を拡大させ、さらに花束加工に取り組んだことで販売量が増加したが、作業や管理面で家族の負担が大きくなってしまった。

そこで、家族経営よりも法人経営が、必要な労働力の確保や就労環境の整備、取引先との信用構築に有利であると判断して、法人化に踏み切った。

法人化後は、新人社員2名を迎えるとともに、平成25年2月には法人として認定農業者に認定された。

## 3 今後に向けて

### (1) 解決すべき課題と現在検討中（取組中）の対処方策

原価を適切に把握し、コスト削減に努めることで、法人としての経営を安定させて利益の拡大を目指す。

冬期間の仕事が少ないので、年間雇用を維持するために、いちご部門を導入する。

社員に生産技術や経営、営業のノウハウを伝授して幹部候補を育成する。

### (2) 今後に向けての経営戦略

実需者の要望に応じるため、パイプハウス増棟により花の種類や生産量を増やし、花束加工量を増加させる。

ネットでの情報発信や消費者と交流する機会を増やして、「より顔の見える農産物」を提供していく。

（調査：本吉農業改良普及センター）

## 略図



### 株式会社 小野花匠園

本吉郡南三陸町歌津中在66番地  
TEL 0226-36-3711 (FAX兼用)  
URL <http://onokashouen.com/>  
E-mail [harutyuan@onokashouen.com](mailto:harutyuan@onokashouen.com)

### 視察受入条件

農繁期は不可  
視察申込は直接当社へ  
常識的範囲の依頼に対応